

施政方針の内容

将来を見据えた持続可能な 町づくりに積極果敢に挑戦



施政方針を述べる佐藤信逸町長

令和3年度の町政の進む方向を決める、第1回町議会定例会が2月12日から3月12日まで開かれ、3年度の一般会計予算などが原案どおり可決されました。初日には佐藤信逸町長が第9次総合計画後期基本計画を柱に、本年度の施政方針を述べました。

今号では、施政方針の内容と令和3年度予算の中身を紹介します。

◆はじめに

私は、昨年7月の町長選挙において、町民の皆さまの負託を受け、3期目となる町政の重責を担うこととなりました。令和2年第3回定例会の所信表明で申し上げましたとおり、これまで以上に誠実に町民の皆さまの声に耳を傾けながら、職員ともども一丸となって町政運営に全力であたってまいります。

さて、東日本大震災の発生から間もなく10年の歳月を迎えようとしています。改めて震災で亡くなられた方々に深い追悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

令和3年度は「みんなで取り戻す、ひとの笑顔、元気な産業、碧海とともに暮らす町」の達成に向け、最優先で取り組んできた「山田町復興計画」が終了し、震災復興から新しい町づくりに舵を切る初年度となります。「山田」の将来を見据えた持続可能な町づくりに積極果敢に挑戦していきます。

このような町政運営の大きな転換期を迎える中、町の行政組織機構の見直しを行います。

しを行います。復興企画課の名称を政策企画課に改め、復興後の新たな町づくり政策の推進体制を強化していきます。被災者の支援業務については、長寿福祉課において引き続き実施します。また、新年度は「第9次総合計画後期基本計画」がスタートする、新たな船出の年となります。3期目の重点施策として掲げた公約を着実に実行に移していくとともに「第2期総合戦略」の積極的な推進により、地域産業の活性化と担い手確保、町内への移住促進および子育て環境の向上を図るなど、将来にわたって活力ある地域社会の実現を目指していきます。

復興に向けた体制強化を図るため導入した、副町長の2人制については、震災発生から10年の節目を機に、元の1人制に戻します。

喫緊の課題となっている新型コロナウイルスウィルス感染症対策については、感染状況や地域経済の動向などを勘案しつつ、感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けた施策を迅速かつ的確に講じていきます。

また、国において新型コロナウイルスワクチンが承認され次第、速やかにワクチン接種を開始できるよう、町内医療機関と連携しながら接種体制を構築するとともに、接種券の発行、必要な物資の確保などの諸準備を早急に進めていきます。

以下、総合計画の各分野に沿って、3年度に展開する主要な施策について申し上げます。

災害復旧

台風19号災害からの早期復旧

令和元年10月の台風19号(以下「台風19号災害」)により、甚大な被害を受けた公共土木施設については、早期復旧に努めるとともに、引き続き災害に強い町づくりを推進していきます。

田の浜地区の復旧については、昨年6月に策定した「復旧方針・復旧整備計画」に基づき「田の浜地区防災緑地公園改良工事」や「準用河川女川改修工事」を中心とした対策を進めていきます。また、町内各地で実施している復旧工事についても、住民の皆さまが一日も早く安心して暮らせるよう早期整備に努めていきます。

健康と福祉の充実・結婚支援と子育て支援

妊娠期から子育て期にわたる支援

健康と福祉の充実

「第3期健康やまだ21プラン」に基づき、健康寿命の延伸を図るため重要



健康づくり教室の様子

となる、運動や食事の生活改善などを目的とした生活習慣病予防教室や減塩教室などを実施します。また「山田町自殺対策計画」に示す、ゲートキーパーの養成や自殺予防の普及啓発活動に引き続き取り組むなど、町民の心身の健康づくりを推進していきます。

災害公営住宅などにお住まいの被災者の心身のケアについては、健康教室・健康相談などを引き続き行い、うつ病などの予防や病気の早期発見に努めていきます。

県立山田病院については、診療体制の充実と医師確保のため、医師の招へい活動を継続するとともに、県に対する要望を引き続き実施していきます。国民健康保険事業については、先般の保険税率改正後、財政運営はおおむね安定的

に推移しています。今後も医療費の適正化を図るなど、健全財政の維持に努めていきます。

乳幼児・児童生徒、妊産婦、重度心身障がい者、ひとり親家庭などに対する「医療費助成事業」は、引き続き実施していきます。

地域福祉については、誰もが安心して暮らせる町づくりを推進するため、災害時避難行動要支援者の「個別計画」を策定していきます。

障がい者福祉については「障がい者福祉計画」に基づき、障がいのある人に必要なサービスを提供し、地域で安心して生活が送られるよう支援していきます。また、民間に運営を引き継ぐ方針が決まった障害児入所施設「はまゆり学園」については、移転新築費用に対する補助を実施していきます。

高齢者福祉については「生きがいづくりと介護予防の推進」「住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり」「介護保険事業の健全かつ円滑な運営」を3つの柱とする、令和3年度からの「第8期介護保険事業計画」に基づき、高齢者の地域での生活を支える地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきます。

結婚支援と子育て支援

新婚夫婦の新生活を応援する「結婚新生活サポート事業」の取り組みや子どものインフルエンザ、おたふくかぜの予防接種に係る費用助成などにより、新婚・子育て世帯がこの町で安心して生活できるよう支援していきます。



親子や保護者同士の交流を深める子育てサロン

「特定不妊治療費助成事業」については、国が検討している支援拡充や保険適用化の動向を注視しつつ、助成を継続していきます。

母子の心身の健全な育成をめざす「子育て世代包括支援事業」については、保健師および助産師が中心となり、妊娠期から子育て期にわたる総合的な支援を引き続き実施するとともに、産後に安心して子育てできる産後ケアの充実を図っていきます。

町の独自支援である0歳児から2歳児までの保育料無償化のほか、3歳児から5歳児までの副食費助成を引き続き実施し、子育て世帯における経済的負担の軽減に努めていきます。

就学前施設については、より効率的な運営が図られるよう、町内全体の幼稚園・保育園の再編について議論を進めていきます。

移住定住支援・住民主体のまちづくり

町内へのさらなる移住・定住を促進

◆移住定住支援

コロナ禍をきっかけに、人々の働き方やライフスタイルに大きな変化が生まれ、地方移住やワーケーションへの関心が高まりをみせつつあります。

オンラインによる移住相談、空き家バンクなどによる住まい支援、移住お試し住宅による移住体験機会の提供などにより、町内へのさらなる移住・定住を促進していきます。

◆住民主体のまちづくり

災害公営住宅などでの新たなコミュニ

ニティについては、コミュニティ形成支援員を引き続き配置するとともに

「住民協働推進支援事業」などを通じて、自治組織のより良い運営や地域の自主的な活動を後押ししていきます。

老朽化が進む各地区の集会施設については、ふるさとセンターに代わる新たな施設の整備に向け、旧大沢小学校校舎の解体工事に着手していきます。また、豊間根支所兼集会施設の建設事業化に向け、地域の意見集約を進めていきます。

交通網・住環境の整備

山田北インターフル化の要望を強化

◆交通網

三陸沿岸地域の早期復興を図るためのリーディングプロジェクトとして重点的に整備が進められてきた三陸沿岸

道路は、全線開通まで間近となりました。山田北インターのフル化については、整備効果などの調査・研究を進めながら、宮古市をはじめ期成同盟会などと連携し、事業化に向け要望活動を強化していきます。

町道については、B & G 海洋センター艇庫付近までの伝作線改良工事を進めるほか、織笠・外山線および礼堂線の拡幅等改良工事を引き続き進めていきます。また、町道などの維持補修については、その緊急性、必要性を考慮しながら、適切な実施に努めていきます。

橋りようについては、2年度に実施



町中心部を8の字に回るまちなか循環バス

した点検結果を踏まえ「橋梁長寿命化修繕計画」の見直しを行うとともに、

老朽化した橋りようの補修工事を順次進めていきます。三陸鉄道リアス線は台風19号災害からの復旧を果たしたのも束の間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経営は深刻な打撃を受けています。町としても、企画列車などのPRに力を入れるとともに「地方ローカル線を守る市町民の会」の活動を積極的に支援し、利用促進に努めていきます。

路線バスなどの公共交通については「地域公共交通網形成計画」に基づき、通院支援のため運行している「患者輸送バス」の見直しを行い、どのような目的でも利用できる「コミュニティバス」として本年4月から試験運行を開始し「地域の足」の確保を進めていきます。

◆住環境の整備

「柳沢北浜地区土地区画整理事業」については、3年度中の土地引き渡し

水産業・農業・商工業・観光の振興

漁業の早期回復に向けた取り組み

◆水産業の振興

水産業については「漁獲物品質向上支援事業」により、漁業者の各種機器導入に対する助成を行い、主要養殖物である力キ、ホタテなどの品質向上に向け、引き続き支援していきます。

記録的な不漁が続く秋サケについては、あらゆる機会をとらえ引き続き県

完了に向けて、境界杭の設置などを実施していきます。

町営住宅については、適正かつ円滑な管理運営を図るため「山田町公営住宅等長寿命化計画」の見直しを行っていきます。また「山田町町営住宅管理センター」と緊密に連携し、入居者が安全・安心で快適な暮らしができるよう努めていきます。

水道事業については、安全で安心できる良質な水道水の安定供給、効率的な経営および施設管理に努めていきます。また、老朽化した水道管を更新するため、配水管布設替工事を行っていきます。

下水道事業については、山田処理区内の供用区域拡大を図るとともに、町民の排水設備工事費の負担軽減を図るため、供用開始後3年以内の工事には下水道接続補助制度を引き続き実施するとともに、4年から7年以内の工事については、工事資金融資利子補給補助を行っていきます。

や国などに対し、不漁の原因究明と資源の早期回復に向けた新たな取り組みを要望していきます。

漁協が行うアワビおよびナマコの種苗放流事業に対する全額補助については、磯根資源の回復と漁業所得の向上を図るため、3年度も引き続き実施していきます。

漁業担い手対策については「豊かな海の担い手育成支援事業」により、漁業後継者や新規就業者に対し助成を行うとともに、漁業就業者育成協議会やいわて水産アカデミーと連携し、担い手の確保・育成に努めていきます。

◆農林業の振興

農業については「豊かな土づくり支援事業」を3年度から開始し、農地の土壌診断と、その結果に基づいた肥料や土壌改良材の投入を促進していきます。また、田名部地区におけるほ場整備を推進するため、引き続き「県営農業農村整備事業」による計画調査に取り組んでいきます。

農業担い手対策については、新たに「新規就農者研修受入支援事業」を立ち上げ、就農希望者の研修を受け入れる農業経営体を支援することで新規就農者の確保・育成を進めていきます。

畜産業については「繁殖素牛購入支援事業」を創設し、飼養頭数の確保と繁殖牛農家の経営安定化を図っていきます。

林業については「森林環境譲与税」を活用しながら、森林経営の効率化と森林管理の適正化を促進していきます。特用林産物であるシイタケについては「特用林産物生産促進支援事業」の充実を図り、生産者の生産意欲の向上、生産量の回復ならびに新たな担い手の確保に努めていきます。

◆商工業の振興

商工業の振興については、山田町商工会や関係団体と協働して共同店舗棟

や交流センターなど中心市街地エリアを核としたにぎわいの創出に向けたイベントの開催などに努めていきます。

復興後の新たな生業の創出を図るため2年度より開始した「やまだ創業サポート事業」を継続して実施するほか、商工会や町内金融機関と連携し「創業支援等事業」にも取り組むなど起業・創業に対する支援を行っていきます。

新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により影響を受けている事業者への支援については、国・県の支援制度も活用しながら事業者が取り組む感染症対策や売り上げが減少している事業者への各種支援などに努めていきます。ふるさと応援寄附の返礼品として贈る「ふるさと特産品」については、新たな本町のファン獲得と特産品需要の拡大につながるよう引き続き取り組んでいきます。

◆観光の振興

観光の振興については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各種イベントの開催中止について苦渋の決断をせざるを得ない状況が続いています。引き続き、個別にその開催の中止や延期、規模縮小などを適切に判断していくとともに、感染症の収束が見通された際は、機を逃さず積極的な観光施策を講じていきます。

昨年8月に震災後初めてとなる海開きを行ったオランダ島については、マリッジやマリッジツアーリズムなどの体験観光の拠点としての活用に加え、無人島キャンプなどの新たな体験メニ

ューの創出にも取り組み、さらなる利用促進を図っていきます。

新道の駅の整備については、4年度中の開業を目指し、詳細設計に着手し

防災・防犯対策

さまざまな災害への地域防災力の向上

昨今の異常気象に伴い、全国的に大規模災害が頻発しており、当町におい

ても地震・津波災害のほか、大雨・土砂災害といったさまざまな災害に対処する必要があります。さらに、災害時における新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底する必要があります。行政機関が担う「公助」だけでは不十分です。このため、日頃から自らの命は自らを守るという「自助」意識を醸成していきます。また、地域や近隣の人が互いに協力し合う「共助」による地域

ていきます。また、並行して、公募による運営候補者の選定を進め、町全体に波及効果をもたらす魅力ある道の駅となるよう取り組んでいきます。

防災力の向上を図っていきます。

火災などの防災対策については、第7分団および第2分団消防屯所の建設に取り組むほか、経年劣化している消防施設などの更新や地下式消火栓および耐震性貯水槽の設置を計画的に進めていきます。また、消防団員の入団促進と教育訓練のさらなる充実を図り、防災体制の強化に努めていきます。

台風19号災害による大雨で越水し、周辺の道路の損壊や住宅の浸水など甚大な被害が発生した準用河川秀禅川などにおいては、今後の水害対策として、河川改修や河道掘削などを中心に改良整備を進めていきます。二級河川については、河道掘削や支障木の伐採などを県に対し引き続き要望していきます。県が実施している防潮堤および水門整備については、一部工事で完成が3年度末まで延長となる見通しが示されておりありますが、一日も早い完成を強く要望していきます。

「民間交番やまだ地域安全センター」については、各種関係団体や山田交番と連携し、地域の防犯・安全活動を行う拠点施設として、引き続き運営を支援していきます。



新たに設置された避難看板

学校教育・生涯教育

6年度の山田小移転開校目指す

◆学校教育

子どもたちの教育環境については、山田小学校の新校舎の建設場所が決定したことから、令和6年度の移転開校を目指し、基本設計および詳細設計を進めていきます。

また、東京学芸大学との連携協定に基づく取り組みを通じて、ICTの効果的な活用をより一層推進し、小中学生の学習意欲を育むとともに、学びの基礎力を高めていきます。

町の未来を担う人材育成については、新たに国内での「児童生徒派遣事業」を実施します。現地学校との交流やホームステイを通して環境の異なる地域との交流を推進し、広い視野を醸成する人材育成に努めていきます。

◆生涯教育

地域学校協働活動については、地域学校支援コーディネーターを引き続き配置し、学校・家庭・地域が一体となつて子どもたちを育む環境づくりに努めていきます。

東京オリンピック・パラリンピック関連の取り組みについては、本年6月に聖火リレーが本町でも開催されることから、これを契機として町民のスポーツへの興味関心が高まるよう、啓発に努めていきます。

◆予算編成

復旧・復興事業の完了後となる3年度一般会計当初予算案の規模は、前年度に比べておよそ4億円の減となる97億円程度となっています。

復興後のまちづくりの指針となる「第9次総合計画後期基本計画」に掲げた施策実現に向けて、限りある財源の有効活用を図りながら、引き続き健全な財政運営に努めていきます。

◆終わりに

昨年から、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい続け、今なお感染拡大への不安が町民の心の中に巣くつています。この感染症を一日も早く収束させ、不安を取り除かなくてはなりません。そして、再び賑わいと活力に満ちた日々を送ることができるよう、ワ

クチン接種に向けた体制整備を町内医療機関と連携し進めていきます。町民の皆さまにおかれましては、マスクの着用、手指消毒の励行、三密回避など感染症から身を守る取り組みを引き続きお願い申し上げます。

そのような中、昨年4月には複式学級解消という大命題のもと学校が再編され、新山田小学校が誕生しました。多くの友達との関わりの中で思いやりの気持ちを培い、切磋琢磨し優しくたくましい山田の子に育っていただきたいと思います。また、念願でありました学校給食が始まり、働くお父さんやお母さんたちの力となり、育ち盛りの子どもたちの食育に貢献していきます。

台風19号災害は田の浜地区をはじめ町内各所に甚大な被害をもたらしました。改めて被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。災害に強い町づくりを目指し地域住民の意見を取り入れ決定した復旧方針に基づき、一日も早く安全・安心な生活ができるよう復旧・整備を進めていきます。

3年度に全線開通する見通しである三陸沿岸道路に対応すべく、山田インターのそばという好立地に計画している新道の駅が、必ず町の経済にとつて大きな効果をもたらすものとなるよう取り組んでいきます。

いつ発生するとも限らない日本海溝、千島海溝での巨大地震による大津波に対しては、今をもって完成していかない防波堤の早期整備を県に強く要望していきます。県立山田病院の診療体制の

確保についても、常勤医師の増員が3年度から実現できるよう県に対し働きかけるなど、一層の努力をしていきます。

一方、当町の基幹産業である水産業界は、サケなどの不漁により先が見通せない状況にあります。私は、町民の痛みを我が事として受け止め、このような困難な時だからこそ、より一層町民に寄り添った行政運営に努力してゆく決意です。

今後、新道の駅や山田小学校建設などの大型投資が増える中、常に健全な財政運営に努めつつ、町民の負託に応えるべく努力していきます。

間もなく、当町に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から10年という大きな節目を迎えます。この間、多くの困難が降りかかってきましたが、職員一丸となり一つ一つ乗り越えてきました。町民各位におかれましては多くの困難がおりだったと思います。ここに至るまでの並々ならぬご努力に敬意と感謝を申し上げます。

先日、新聞紙上で山田町の特集があり、ある記者がこのように書いていました。「このまちには、たくましさがある。懸命に前を向き、次世代に思いをつなぐ力だ。私たちには、子や孫のために、このような思いにしっかりと応える責任があります。」

結びに、町民並びに議会の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の施政方針とさせていただきます。